

江戸川大学国立公園研究所から

執筆担当・宮地信良

はじめに

自然の豊かな観光地を訪れる一般の人にとって、実は「国立公園」の存在感は薄い。公園の特徴はもちろん、その名前さえも十分知られていないと言えないのが我が国の現状であろう。「何とかしてこのような人々にも国立公園の存在と意義を知ってもらい、できれば公園ファンになってもらえないだろうか？」こんな問題意識から生まれたのが「国立公園映像コンサート」というPRの手法である。

国立公園映像コンサートとは？

国立公園をPRするのに、どうして「コンサート」などという形を考えたのですか？

M あまり国立公園に関心がない人にも来てもらいたかったからで

す。江戸川大学には全国で唯一の国立公園研究所があります。秋の学園祭に出展する催しとして、初めシンポジウムや講演会を考えました。こういう「硬い」催しだと人が集まりにくく、来ていただいたとしても国立公園に関心がある方に限られます。コンサートなら普段国立公園を意識していない人にも来てもらえるのではないだろうか、そしてその場で国立公園についてのPRができるのではないだろうか、と考えました。

その目論見は当たりましたか？

M 「映像コンサート」というタイトルなので音楽を目的にした人が集まってきました。もちろん国立公園に関心があった方もいらっしゃると思います。来場者は一昨年が約七〇人だったのが、昨年は二倍の一五〇人になりました。終わった後のアンケートの結果に

よると、およそ三分の一の方が「国立公園がどこにあるのか意識していない」または「国立公園に行ったことはない」と答えており、国立公園にはあまり関心がない方も引き込めたと思っています。

具体的には、どんなことをやるのですか？

M 大学ですから大きな階段教室があります。ここで国立公園の映像を大画面で楽しみながら生演奏を聴くという、とても贅沢な催しです。江戸川大学の場合はピアノ、バイオリン、ビオラの三人の演奏者が曲を演奏しながら、プロジェクトでキャプションの入った国立公園に関する写真を映しました。

映像のコンテンツはどのようなものですか？

M 内容を大別すると、①特定の国立公園や地域を紹介するもの、



国立公園映像コンサートのチラシ



江戸川大学での映像コンサート風景

例えば「地上の楽園・尾瀬」「グランドキャニオン国立公園」など、②花、樹木、山、動物など自然のジャンルをテーマにしたもの、「花の国立公園めぐり」「生きもの・動物の世界」といったものです。そのほか③「小さな草原の物語―日光国立公園・土呂部―」「アートな自然を訪ねる旅―国立公園美術館―」というような国立公園に関する独自のテーマを設けたものもあります。各タイトルにまつわる写真を集め、ストーリーを考えた上でコマずつキャプションを入れて一つの作品を作り、四〇〜六〇枚くらいの写真をパワーポイントを使って映写します。

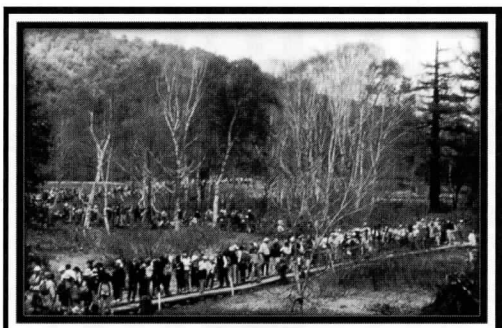
—音楽はどのような曲を選んでいくのですか？

M クラシック曲を中心に映画音楽、童謡、あるいはテレビ番組のテーマソングといった曲の中から作品のテーマや映像のイメージに合ったものを探します。ただ映像の方にも注意を向けてほしいので、ボーカルの入った曲は避けています。一本の途中で映像の内容が大きく変わるときには、音楽を別の曲に切り替えて内容の違いを強調することも効果があります。曲を決めるのは大変ですが、とても楽しい仕事です。制作者の中に「音楽好き」がいると、より楽しい作品になると思います。

制作するときのポイント

—ところで、制作するとき特に配慮している点や注意していることはありますか？

M 国立公園のイメージというと「大風景」や「花」といった映像になりがちですが、単なる「写真集」や「図鑑」にならないように注意しました。「きれいだっただ」楽しかった」だけで終わらず、新しい形の国立公園の利用や、見過ごさ



かつては現在の2倍以上の人が訪れ、過剰利用が大問題に

れていた小さな自然、また国立公園の今後の可能性を提案したり管理上の問題を考えたりも行うことを含めるようにしています。このためにはキャプションが重要です。キャプションは全体としてストーリーがあるように、また一枚一枚の映像に意味をもたせるように考えます。またキャプションが二行になつて映像を邪魔しないように、言葉足らずは覚悟の上で二六文字以内という制約を設けました。

実際に国立公園でやってみるには？

—映像コンサートを国立公園の現場でやれたら良いと思うのですが、

どんな形が考えられますか？

M 例えばビクターセンターは休憩スペースや空間の広い展示室があるところが多いので、ここをうまく活用できるのではないのでしょうか？ ビクターセンターは内装が木のところが多いので音の響きが良く、コンサートに向いている空間だと思います。実際、日光国立公園の日光湯元ビクターセンターでは休憩室と展示の間に椅子を並べてライブコンサートをを行い、大変好評でした。ビクターセンターでの映像コンサートは、国立公園のPRだけではなくビクターセンターの客層を広げるにも有効だと思います。そのほかホテルのロビーなどでも移動式のスクリーンを使って行うことができます。

—そうは言っても、生演奏となると難しい場合も多いと思うのですが……

M その場合は、ほかの場所で演奏した録音音源を使ったり、CDを使っても良いと思います。実際にコロナ禍のときには江戸川大学でも演奏を別会場ですべての音源と映像を併せたデータを作り、大学のホームページにYouTubeで

アップしました。なお音楽は特に著作権に触れないように注意する必要があります。

おわりに

国立公園という存在を一般の方にとつて身近なものにしてゆくには、従来これらに関心が薄かった層にPRを広げてゆく努力が必要だろう。今回紹介した「国立公園映像コンサート」はその一つの手法になるのではないだろうか。これはもちろん国立公園や都道府県立自然公園でも可能なものである。近年はビクターセンターでカフェ的なスペースを作るところが増えて、公園の楽しみが増えたという声を聞く。「国立公園映像コンサート」も同様に公園の楽しみの一つにもなるかもしれない。各地の実情に合わせて可能なやり方を考え、試みていただければ幸いである。

宮地 信良●みやじ のぶよし

環境庁（当時）で国立公園の現地管理、野生生物課勤務等の中途退職し、栃木県日光市で有限会社自然計画を設立。代表取締役として調査や自然ガイド業務を行っている。技術士（環境部門）。江戸川大学国立公園研究所客員研究員。著書に「奥日光自然観察ガイド」（山と溪谷社）等。